

ふりがな 氏名	ほし くみこ <b>星 久美子</b>	都道府県	<b>神奈川県</b>	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定非営利活動法人開発教育協会/DEAR 事務局スタッフ</li> <li>・ASPUivNet 東海大学教養学部 事務局</li> </ul>			
私のESD活動	「自分事」として世界を考えられるような活動			
ESD活動を表すキーワード	<b>広がり</b>	<b>学び合い</b>	<b>価値観・意識</b>	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

・異文化交流学生団体の立ち上げ(2010年)

大学3年次にブラジルの漁村で半年間のボランティア活動を行いました。帰国後、日本に住むブラジル人などの子どもたちとの交流を目的とする、Beijo Me Liga(ベイジョ メリーガ)という学生団体を設立し、マルチカルチャーキャンプを企画しました。外国にルーツをもつ子どもたち約150名を招いて、さまざまなアクティビティを通して交流しました。多文化共生とは何かを考える機会となりました。現在もキャンプは毎年開催されています。

・ベリーズでの環境教育(2011~2013年)

青年海外協力隊として中米ベリーズで環境教育を広める活動を2年間行いました。廃棄物(主に生活ゴミ)の問題を目の当たりにし、ゴミに対する人々の無関心にアプローチすることを目標に、小中学校での環境教育授業、教員向けセミナー、政府の環境系機関との全国出前ワークショップ、ゴミ工作集の作成、住民参加ゴミライブアートなど、人々とのつながりと広がりを意識して活動を行いました。また、ゴミに対する自分自身の価値観についても気づくことができました。

・開発教育協会/DEARでの活動(2014年~現在)

インターンを経て事務局スタッフとなり、主に開発教育ファシリテーターとして従事しています。中高生向けワークショップの際は、話し合いを通して相手の意見からの気づきや、自分自身の当たり前に触れるような発問を取り入れるようにしています。また、さまざまなグローバルイシューズに対しての「無力感」を打破するために、実際に行われているアクションを例として出し、「社会は変えることができる」というメッセージを送るように心掛けています。

・BeijoMeLiga マルチカルチャーキャンプ [http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/challenge/news/detail/20140826\\_2.html](http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/challenge/news/detail/20140826_2.html)

・外務省 NGO インターン・プログラム [http://www.joca.or.jp/activites/ngo-intern/h26/h26\\_katsudo/dear.html](http://www.joca.or.jp/activites/ngo-intern/h26/h26_katsudo/dear.html)

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

マルチカルチャーキャンプは、外国にルーツをもつ子どもたちとの交流が目的ですが、今後は、さらに多様な参加者が集まれるように、外国学校やインターナショナルスクールの子どもたち、そして先生たちも交えたキャンプを企画したいと思っています。また、各回のテーマである「平和」や「つながり」について、その言葉の捉え方について話し合うアクティビティを入れていきたいです。課題は、ユースの参画をどう呼びかければよいかという点です。学生時代から共に活動してきた仲間の中にも20代半ばから後半になると、さまざまな事情で、これまでの活動に関わらなくなる人がいます。関心が薄れてしまったのかもしれませんが、参加しやすい企画や集客の方法などの知恵を参加者からもらいたいと思っています。今後の活動を展開する上で、どのように巻き込んでいくかが重要なポイントになると思います。